

## 大阪府住宅まちづくり審議会 第3回作業部会 議事要旨

日 時：平成27年6月29日（月）18時00分～20時00分

場 所：あべのハルカス会議室E

議 事：大阪における今後の住宅まちづくり政策のあり方について  
（事務局より資料1～4を説明。以下、質疑応答・意見交換）

### 【意見交換概要】

#### 1. ビジョン策定の前提として議論・整理すべき事項について

委員名	意見概要
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回出た意見として、ビジョンの中でも都市という言葉に結構使っているが、都市というものをどう捉えているのか等という議論があった。</li> <li>・地域についてもどのように地域を捉えるのかとか、あるいはもっとコミュニティレベルの問題を重視しなければいけないのではないかな等の議論があった。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市という言葉について、文中にでてくるときに明らかに都心のことを書いている。都心周辺の市街地を書いているときにそれを都市と書いている等が気になっていた。</li> <li>・都市を都心・都心周辺・郊外・「農空間など自然を有する地域」と4段階に分けられているが、「農空間など自然を有する地域」は少し長いので、自然豊かな地域ぐらいでよい。</li> <li>・そのような地域が大阪にあるという話をしてから、それぞれの周辺の住まい方や状況等を説明するような言い方をしていけばよい。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の使い方として、もう少し地理学の学術的な言葉の使い方を踏まえないと、人によって解釈の仕方がいろいろと出てくる。</li> <li>・都心・郊外という単純なモデルではなく、都心から郊外に同心円で広がっているような考え方を持つこと自体が一つのモデルであり、地理学的にもっと細かな概念を設定して言葉を使っていくような認識も必要である。</li> <li>・都市の概念を定義し、それを踏まえた内容とすれば、だいぶ言葉の深みや重みが違ってくる。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について、小学校単位くらいが一般的にコミュニティの最大の範囲であるが、そういう地域だけではなくて、例えば、三島、豊能、泉南といった具体的な地域を想定した議論も必要である。</li> <li>・大阪であれば土木事務所が7つに分かれており、場所によって歴史・自然環境・都市化の状況・気質・文化も違う。こういった議論をすると、すぐに都市レベルという話になるので、もうちょっとメゾ的な話があって施策を考えていかなければならない。</li> <li>・都市の居住魅力を構成する要素について、例えば同じみどり・景観・街並みであっても広域的に考えていく題材とそうでない題材があるので、テーマごとにスケール感を出しながらそれに該当する施策や事業を詰めていく必要がある。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住魅力について、住環境、地域環境、都市環境といったスケール感と、福祉環境や教育環境といった環境の内容とをうまく使い分ける必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり・景観・街並みなどは、見た目と、みどりには付随して空気・水・熱といった環境が含まれていると思うが、見た目だけじゃないとわかるような表現が必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住魅力の内容が古臭く、チェックリストになっている。</li> <li>・いろいろな人に暮らし方についてヒアリングをする中で、よく出てくる言葉が「丁寧に暮らす」であり、最小限の消費で自分を律しながら、そういったことを楽しむような暮らし方を提示することも必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な暮らしという言葉は、町屋の生活のときによく言われて、小島富佐江さんが本も出されており、町屋の生活の魅力を示されている。</li> <li>・現代人がびびっとくるような価値観というものを提示しないと、居住魅力を表現したことにはならない。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の魅力を考えたとき、地縁や血縁だけに頼らずに自分の選択的なコミュニティを作りやすいような魅力であるとか、情報へのアクセスの良さという観点も重要であり、大都市だから楽しめるような視点が特に大阪では重要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大阪市の高井田の事例など、町工場と一緒に暮らすとか、そういった魅力も必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここに並んでいる言葉を見ていると、都市でも田舎でも通用してしまう。少し前の新しいニュータウンを作るときの指標のような感じがする。</li> <li>・多様な価値観を全て受け止めるためのキャパシティや、いろいろな人がいても許してもらえる包容力、そういったものはどういうふうに表現するのか。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストが別にまずいわけではなく、少なくともこういった項目は重要であるが、これが都市の魅力を表現したことにはならない。</li> <li>・ビジョンを出すときには、情報発信ということも考えなくてはならない。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪はどの地域でも強弱はあるがだいたい満たしているというような言い方をうまくすべきである。少なくともどの項目も、移動時間が1時間以内で達成できるというところを都市の魅力として定義するということが1つである。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいやまちづくり政策の目標の立て方として、最低水準以下のものを作らないということが大事であり、関西はそういった目標が比較的フィットする。</li> <li>・もう1つは、その上でできるだけ多様性や選択性が確保されているというような状況が関西らしいまちづくりの目標になる。</li> <li>・それをうまく表現して、チェックリストでチェックできるような仕組みを作っておけば、現在の人々の価値観を触発するビジョンができる気がしている。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性の社会とは、いわゆる混在した都市圏・都市構造を形成していくかということであり、まちなかだけで一定の都市圏で経済活動が起こっているところは、非日常的なことに非常に弱いと阪神淡路大震災の当時によく言われた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの地域を横並びにして全体で共通して言える都市の魅力と、個々の地域のポテンシャルを活かしていくまちづくりを推進していくという考え方が必要で、共通性と区別化、これが大きな全体テーマとサブテーマに分かれるのではないか。</li> </ul>
--	---

## 2. ビジョンの各省に対する具体的な意見について

### 3. 重点的取組みを検討するに当たっての意見等

委員名	意見概要
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来像として挙げている「たくさん、かつ多様な人々が住み、働き、学び、楽しむことができる大阪」というのが、もう少し魅力的な言葉に変わらないか。</li> <li>・多様な人々がそれぞれ大阪の自分で良いと思うところを必ず発見できて、身近に感じることができるということが、大阪の持つ多様性に対するキャパシティである。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の特色として多様性を認めるという文化特性をどこかに入れれば対応できる。異質な人を排除するという文化ではないということである。</li> <li>・「ええとこどり」なくらしは言い過ぎで、多くが生まれ変わっていると表現を変えた方がよい。老朽化した木造住宅等がまだ残っているのに、と思われたいような書き方が必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逆に全部建て替わるのかと思ってしまった。質の悪いものや狭小なものは建替えるとしても、良いものはちゃんと残っており、うまく活用されて豊かに暮らしているところも大阪の魅力として発信できればよい。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な書きぶりとして、最低水準をクリアしていくということは明快なビジョンであり、その考え方に加え、よりよい方向に魅力をどう作っていくのかという、その2つで考えていくとわかりやすくなる。</li> <li>・基本目標で書かれている、福祉の住まいという言葉が適切ではない。少子高齢社会に対応した住まいなのか。</li> <li>・また、住宅まちづくり政策の展開方針で書かれている、民という言葉と、民間という言葉の使い分けが気になる。</li> <li>・徹底的イナカぐらし、イナカぐらしときどきトカイについて、カタカナの表記により抽象的な表現にしたかったのかと思うが、少し釈然としないので検討が必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低水準とは、作るときの最低ではなくてストックとして存在を認めるかどうかであり、そういう観点で住環境や地域の環境を見直してみることは大事である。</li> <li>・木造の住宅ストックも、修理をしてより魅力的な活用ができるストックもあれば、建て替えてしまわないといけないものもあり、そういうこともやり、こういうこともやります、ということが多様性を表現するということになると思う。</li> <li>・将来像が決定論的な書き方になっているのが気になる。計画には選択性が必要で、今決めなくてはならないことだけを決めて、次の世代に選択性をどれだけ残すかということである。必然的に将来像は複数の可能性のある幅を持ったものになる。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョンの全体的なつながりを明確にしないと、最後の大阪に住まう将来イメージが思いつきのように見える。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会のときにはこういう資料作りでよいが、作業部会ではこのテーマがどうやってできたのかというような、キーワードだけでよいので作業流れ図的な資料を作ってもらえれば意見交換がしやすい。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来イメージの中で、「今では」と書いてあるが、その部分が誤解を生みやすいので削除したほうがよい。その言葉があるから将来なのか今なのかわからない。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の居住魅力の中で、歴史・文化・祭りとあるが、祭りは文化の要素ではないのか。特に強調するのであればそれなりのエビデンスが必要であり、他地域に比べて特色があるとかが言えないと、アピールしても魅力発信につながるかわからない。</li> <li>・キャッチコピーとして何を出すかということと、文章そのものをどこまで論理的に書くかということに試行錯誤がいるかと思う。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の方向性の中で「住まいの魅力だけでなく、都市の居住魅力を高めます」という部分が少しわかりにくい。タイトルをもう少しわかりやすくしてもらえればよい。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいは住宅のことかと思うが、住まいというと環境も含まれていると理解されるのでわかりにくくなる。言葉の使い方がまだ整理できていないのかもしれない。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪になぜ住みたくないかヒアリングすると、大阪は怖いという回答が多い。ビジョンの中にこのことに対する回答はないが、例えば犯罪の発生率や生活保護者の人数など、そういう部分をビジョンで本当に書くのかということは迷う部分ではある。</li> <li>・また、超高齢社会がやってくるということもほとんど意識していない。子供とっばい書いてあるが、本当はそっちをもっと書く必要がある。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの社会は人々を孤立させないとか、人々の心を荒廃させる景観にしないとか、最低限命が守れるような耐震性を確保するとか、それ以下がない社会をめざしていくというベースがある中に安全が入ってくる。</li> <li>・基本目標について、安全・安心と活力・魅力で重複する部分もあるので、この2本立てでいくのか、最低水準以下を作らないということをして1つの柱立として、フレームワークを作っていくというやり方もある。</li> <li>・大阪が怖いという話は、大阪の市営地下鉄がなぜかいつもすりやひったくりに気を付けるとアナウンスするのが1つの原因ではないかなと思っている。イメージと両方対策は必要である。</li> </ul>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県では政策として、防犯の安全性を高めるということをおお阪より発信している。</li> <li>・日本では1つの項目として防犯という感覚であるが、ヨーロッパの団地の再生等のプロジェクトでは、防犯というものがまずあってその中にいろいろなコミュニティのデザインの要素とかが入っているという感覚である。</li> <li>・大阪も犯罪発生率が高いところもあれば低いところもあるので、そういうものをどのように住宅まちづくり政策として考えるのかということは議論したほうがいいのかもわからない。</li> </ul>